

令和 3 年 8 月 18 日現在

機関番号：32413

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K10011

研究課題名(和文) 作業療法士の熟達尺度の開発

研究課題名(英文) Development of proficiency scale for occupational therapists

研究代表者

田中 秀宜 (Tanaka, Hideki)

文京学院大学・保健医療技術学部・准教授

研究者番号：90733585

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：現状では作業療法士(OTR)の熟達に関する人材育成については、それぞれの病院・施設が試行錯誤しながら取り組んでおり、各病院・施設の組織風土が個人の熟達に影響を与えていることが示唆された。日本のOTRの熟達を促す組織風土については、ストレス管理、ワークライフバランス、学際的なコラボレーション、女性OTRのための職場環境整備、そしてOTRのアイデンティティの育成について言及されていた。先行研究を元にした調査を実施したところ、OTRの熟達を促す組織風土の要素として、大きく「先輩からの指導・フィードバック・知識や技術の伝達があること」と「勉強会・学会に参加しやすいこと」という2つの要素が挙げられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果より、作業療法士の熟達を促すには個人の能力のみならず、職場環境すなわち組織風土も大きく関与していることが明らかとなった。作業療法士の熟達を促す組織風土として、特に「先輩からの指導・フィードバック・知識や技術の伝達があること」と「勉強会・学会に参加しやすいこと」という要素が挙げられた。研究結果はこれからのリハビリ専門職の職場環境を整備する際の参考とすることができ、またリハビリテーションチームの質の向上にも寄与できる可能性がある。今後はこれらの知見を元に、組織風土が作業療法士の熟達にどの程度影響を与えるのか、学術的な検証を積み重ねながら人材開発を進めていくことが重要であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：Hospitals and care facilities have been working on human resources development of Occupational Therapists (OTR) in their own ways through trials and errors. As a result, the organizational climate of respective hospitals and facilities affects the skills and proficiencies of individual OTR. Stress management, work-life balance, interdisciplinary collaboration, work environment for female OTR, and fostering OTR identity are said to be the main elements of the organizational culture to promote the proficiency of OTR in Japan. Our recent survey, conducted based on previous studies, shows that the following two elements are especially important for the organizational culture in developing the proficiencies of OTR. One is "guidance, feedback, knowledge and skill transfer from senior staff members." Another element is "easy access to study sessions and academic congress."

研究分野：作業療法士の人材開発・組織開発

キーワード：作業療法士 熟達 組織風土

1. 研究開始当初の背景

リハビリテーション専門職の人材開発は、従来、熟達者が初心者にその技能の伝達を図る際に経験則的な、いわゆる「on the job training (OJT)」を中心とする指導が行われてきており、後進の臨床実践技能向上を目的とした人材育成については、指導者および新人の個々の能力への依存度が高かった。研究開始当初、本研究では根拠に基づいた作業療法士の効果的な人材開発に向けて個人の能力についての尺度開発を実施する予定であったが、先行研究になどから、熟達には職場環境すなわち組織風土が少なからず関与していることが示唆され、組織風土を中心とした調査を実施することとした。

近年、人材開発の研究においても、職場(Workplace)を学習環境としてとらえ、その環境が学習に影響を与える可能性を実証的に探求する研究も増えている。医療現場に関しての組織風土の研究では、組織風土と医療事故の関連性についての報告などがなされている他、病院職員のストレスや職務満足度に関しての報告もある。しかしながら、組織風土が作業療法士をはじめとするリハ専門職の熟達やパフォーマンスに与える影響を分析している研究は少ない。

2. 研究の目的

そこで本研究では、リハビリテーション専門職において、職場風土(職場環境)が熟達に関連する事象にどのように影響を与えるかを明らかにするため、「現在のリハビリテーション専門職の組織風土(職場環境)がどのようなものであれば、リハビリテーション専門職自身の熟達を促すと考えるか」という内容について、実際に臨床で勤務する作業療法士にアンケート調査を行い、自由記述から得られたデータについてテキストマイニングを実施し、その要素を質的に分析する。

これらの研究成果は同じリハビリテーション専門職である理学療法士、言語聴覚士等についても非常に有用な先駆となることが予測される。実際の臨床場面において、作業療法士をはじめとしたリハビリテーション専門職の知識と技能の円滑な向上が多職種連携やチーム医療の質の向上にも寄与することが期待される。

3. 研究の方法

回復期リハビリテーション病棟に常勤専従として勤務する作業療法士および理学療法士に対し、「現在の組織風土(職場環境)がどのようなものであれば、リハ専門職の熟達を促すと考えますか。些細なことでも構いませんので、なるべく多くお書きください。」という設問に対し、web サイト上のアンケートフォームから自由記述による回答を得た。自由記述から得られたテキストデータについて、ユーザーローカル AI テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) を用いて分析を実施した。

4. 研究成果

作業療法士の熟達を促す組織風土の要素として、「先輩からの指導・フィードバック・知識や技術の伝達がある組織風土」、「勉強会・学会への参加しやすい組織風土」などが重要であると考えていることが示唆された。また同じリハ専門職でも、若手と指導を行う中堅以降

の業務や学習に対する熱量の差など、様々な立場の違いによる「意識の差（ギャップ）」や、新人や若手のリハ専門職の経済的および時間的な「制約」から学会や勉強会に参加しづらい現状が浮き彫りとなった。これらの「意識の差（ギャップ）」や「制約」を取り除く（調整する）ことが、今後、リハ専門職の熟達を促す組織風土（職場環境）の醸成に繋がる可能性が考えられる。

作業療法士をはじめとするリハビリテーション専門職は今後も毎年多くの新人が輩出される見込みであり、効果的な人材開発への取り組みが急務となっている。本研究結果をもとに、リハビリテーション専門職における組織風土が熟達に与える影響についての学術的な調査をさらに進めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中秀宜, 鈴木里砂	4. 巻 第21号
2. 論文標題 リハビリテーション専門職における組織風土が熟達に与える影響 -パイロットスタディ- Impact of organizational climate on proficiency in the rehabilitation profession - A Pilot Study -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文京学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 213-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木里砂, 栗田泰成, 田中秀宜	4. 巻 第21号
2. 論文標題 理学療法士の動作分析時の視線追跡 -パイロットスタディ- Eye-tracking Data in The Visual Motion Analysis of The Physical Therapist - A Pilot Study -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文京学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 213-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Hideki Tanaka, Kanaha Matsui, Kayoko Takahashi
2. 発表標題 Literature Review of Organizational Climate and Workplace Environment of Occupational Therapist in Japan .
3. 学会等名 2nd COTEC-ENOTHE CONGRESS 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 鈴木里砂, 栗田泰成, 田中秀宜
2. 発表標題 理学療法士の動作分析時における視線追跡軌跡の経験年数による特徴 Eye-tracking during Gait Analysis of Physical therapists .
3. 学会等名 第9回日本理学療法教育学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 関川陽平, 根本悟子, 伊藤剛, 田中秀宜, 菊池和美
2. 発表標題 高齢者の生活におけるSNSの作業活動への利用-SCATを用いた内容分析からの検討 Usage of social networking service in occupational activities of elderlies Analysis utilizing SCAT
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中秀宜, 水野健, 関川陽平, 高橋香代子
2. 発表標題 作業療法士の臨床実践能力の評価に関する文献研究-Literature review of assessment of Occupational Therapy competency
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関川陽平, 田中秀宜
2. 発表標題 スマートフォン・タブレット端末の リハビリテーションへの活用に関する文献レビュー Literature review on the application of smart devices for rehabilitation
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideki Tanaka, Risa Suzuki, Sayoko Kawabata, Yohei Sekikawa, Sachiko Ohashi, Masami Yasunaga, Hirokazu Nishikata
2. 発表標題 Organizational Climate and Workplace Environment of Rehabilitation Professionals in Japan: A Literature Review
3. 学会等名 12th International Symposium of Health Sciences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中秀宜, 河村晃依, 高橋香代子
2. 発表標題 日本の作業療法士の国際的多職種間連携教育に関する文献研究-Literature review on the education for international multidisciplinary collaboration of Occupational Therapists in Japan
3. 学会等名 第52回日本作業療法学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------